



地域なんでも情報局

第11号

平成25年6月17日発行

長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281



長崎市社会福祉協議会深堀支部（以下、「社協深堀支部」という。）では、現在「ささえあい故郷づくり ネットワーク活動」として、一人暮らし高齢者や昼間一人暮らしの高齢者、197世帯を自治会の各班に2名いる338名の「見守り福祉協力員」が見守っています。

「見守り福祉協力員」は、普段の日常生活の中であたたかく見守り、ちょっとした変化に気付いたときに民生委員や自治会長に知らせる役割を担っています。

一方で、民生委員は、長崎市から提供された、災害時に援助を必要とする方の情報を地図に落とし込んでマップを作っています。（一人暮らし、災害時要援護者地区）

しかし、この情報は、個人情報保護の観点から、民生委員と自治会長が共有することはできません。

個人情報保護と地域の見守りをきかせる

～深堀地区の「見守りマップ」の事例から～

何か大きな災害が起きた時に一人暮らしや寝たきりの高齢者は、民生委員が来るまで待つているわけにはいきません。いかに早く助けるかが重要です。そのためには、近所での日頃の声かけや見守りの積み重ねが大切です。更には、災害が起きた時に、誰が誰をどうやって助けるのかが分かっているなければいけません。



そこで、深堀地区連合自治会では、今年の1月20日に16の自治会長と消防団員が住民を先導して、深堀地区体育館に総勢377名が参加する防災訓練を実施しました。この防災訓練では、簡易担架の作り方や、シートや毛布を使って一人で屋外退避させる方法などを体験学習しました。

これを踏まえて、社協深堀支部では3月15日に、16の自治会長と民生委員が深堀地区公民館に集まり、日頃、自治会が見守



っている情報を住宅地図で確認をして、「見守りマップ」に落とし込み、各々の自治会に持ち帰りました。ただし、このマップには民生委員が長崎市から提供された個人情報は一切使っていません。

完成した地図の原本は、自治会が保管し、写しを「ささえあい故郷づくり ネットワーク活動」の本部で保管することになっています。

こうすることで、深堀地区全体的に見守り情報を把握することができると。

地域での見守りの仕組みをつくるには、「顔の分かる、名前前で呼び合える関係」が大事です。この深堀地区の取り組みは、住民による身近な見守りを行う上で、個人情報保護にどう向き合うのかを考えさせてくれます。

あの人！とんな人！とんな人！

高比良 則之さん 日見地区



長崎街道が町中をはしる日見地区において、日見地区民協会長を務め、忙しい日々を送っている高比良さんは、もう10年以上民生委員として日見地区を見守っています。

民生委員になった当初は、お年寄り相手が主な活動でしたが、年月が経ち、社会情勢などの変化もあり、今では赤ちゃんからお年寄りまで幅広く活動をするようになって、色々なことに気を配らなければならないようになったとおっしゃいます。

「地域のことを知るには、まず地域に住んでいる方と顔見知りにならないければならぬ」とおっしゃる高比良さんは、地域の子どもたちが登校する時に家の近所に立ち、毎朝子供たちを見送っています。

朝7時すぎに家を出て、家のすぐ近くの信号のない十字路に立ち、登校する子供たちに「いってらっしゃい！」

「車に注意せんばよ！」と声をかけ、子供たちが安全に登校できるよう、もう11年もの間見送り続けています。

毎朝150名ほどの子供たちが登校して行くのですが、子供たちも毎朝見送ってくれる高比良さんに「おはようございます！」「今何時ですか？」といった話しかけてきて、そんな子供たちの元気な声を聞くのが楽しいから、毎朝の見送りも自分の生活の一部になっており、全然苦にならない

とおっしゃいます。

また、数年前から日見地区の男性民生委員が中心になって、公民館で年1回、小学生と一緒に竹細工の作り方を教えており、これまで、水鉄砲や竹とんぼを作りましたが、今の子どもたちは刃物を使いたくなく、教える時はマンツーマンで、刃物の握り方から教えないといけないというので、なかなかうまくいかないこともあるそうです。分、一緒に苦労して作った顔は格別だそうです。

去年は12月にミニ門松を作ることにになり、太い竹と細い竹を組み合わせて、縄で縛って作ったのですが、初めて作る門松に、子供たちも興味津々だったようです。

こうして、日々、間近で地域の子供たちの成長を見守り続けている高比良さんは、「子供たちひとりひとりの成長を見ることが楽しく、生活にも張り合いが出てくる、これからも自分ができる限り子供たちを見守っていきたい」とやさしい笑顔でおっしゃっていました。



門松うまくできたかな？

広がるサロン活動

高齢者ふれあいサロン（以下、「サロン」という。）が市内各地に広がっています。最近では平山町、香焼町、西山台、丸善団地、晴海台にて週1回開催型のサロンがスタートしました。西山台地区のサロンでは、4月7日（日）に発足式が行われ、サロンの参加者みんなで手作りした「くす玉」を来賓の田上市長とともに割り、盛大にスタートが切られました。岩本カツミさん（「ふれあいサロン西山台」代表）は、「このよう

なサロン活動を通じて、家に閉じこもる高齢者が一人でも少なくなり、住民同士の絆がより一層強くなっていくようにみんなで頑張りたい」と熱い決意を語っておられました。他にも月1〜2回開催型のサロンが川平地区や式見地区などでも始まっており、健康体操やレクリエーション等で楽しいひと時を過ごされているようです。皆様のお住まいの地域でもこのようなサロン活動を始めてみませんか。

発足式でのくす玉割り



サロンサポーターの皆さん



私たちと一緒に明るく
元気に楽しみましょう！

山桜の会

西城山地区では毎年立岩西公園で自治会や老人クラブの方々を中心とした大勢の住民で花見会が行われています。もともと、山桜を育てる住民有志の会「桜の会」が平成17年に発足し、70〜80本もの桜の植樹や草刈りを始めたことがきっかけのこと。初めの頃は背丈以上の草木に覆われていた桜も今では大空いっぱい枝葉を伸ばし、毎年美しい花を咲かせているそうです。住民の方々はこの花見会を毎年楽しみにしているそうです。ソメイヨシノより寿命が長いと言われる山桜のように、この花見会もいつまでも続いて行くとい



少し肌寒くもありましたが、ほろ酔い気分できれいな会となりました



三世代グラウンドゴルフ大会



社協立神支部

長崎市社会福祉協議会立神支部主催による、「三世代グラウンドゴルフ大会」が3月24日（日）、立神小学校跡地グラウンドにて、開催されました。この「三世代グラウンドゴルフ大会」は、15年ほど前から地域住民の融和とふれあいを目的に毎年開催されています。当日は、地域の高齢者、児童とその保護者を含め、約100名が旧立神小学校跡地グラウンドに集まりました。磯支部長による開会のあいさつと競技の説明が終わると、早速、競技開始となり



りました。競技は、8ホールの競技場をグラウンドに2面用意し、5人1組の計16組で16のホールを回り、スコアを競い合いました。日頃からグラウンドゴルフの練習を行っている高齢者の方々は、ホールインワンを出すなど、華麗なスティックさばきを見せるのに対し、児童の皆さんはなかなか要領がつかめず、ボールがショートしたり、打つ勢いが強すぎて隣のホールにまで悪戦苦闘の連続で、まわりの高齢者からのアドバイスにより、ようやくコツをつかんだ頃に、ゲームが終了となりました。競技終了後は、成績上位者のスコアが発表され、磯支部長より、ホールインワン賞をはじめ、上位入賞者には豪華賞品が手渡されたほか、おしくも入賞を逃した参加者全員にも参加賞が手渡され、三世代がグラウンドゴルフを通じ、楽しく交流し、親睦が深まった一日となりました。立神地区では、旧立神小学校跡地が「三世代グラウンドゴルフ大会」をはじめ、地域における様々な住民活動の拠点として、有効に活用されています。



お手玉で交流

お手玉は、昔から親しまれた遊びで、母から娘へ、そして孫へと、作り方や遊び方が伝えられています。また、お手玉は、後生に引き継ぐ大切なふるさと長崎の文化でもあります。三世代交流のコミュニケーションを図る取り組みが行われていて、その魅力や可能性が見直されつつあります。そこで、ダイヤランドの高齢者ふれあいサロン（ひまわりサロン）では、5月25日に「もってこい長崎レクリエーショングループお手玉の会」の指導のもと、子ども会を招き交流を深めました。子供たちにとっては、やったこともない昔遊びの「お手玉」でした。2人1組でのやり取りから始めて、だんだんその楽しさに引き込まれたころ、今度は、お手玉の会の方が紅白の旗を持って審判員として登場し、覚えの早い子どもと、昔取った杵柄のおばあちゃんが対峙して、5人対5人の試合が開始されました。5人1組



あとかき
今月初旬、式見地区で行われたホタル観賞会で久しぶりにもホタルを見ました。とても幻想的で風流な光景に、地元の方々と一緒に時を忘れて見とれていました。この時期ならではの光

景をもう一つ。「洗濯機、まわせば我が家、ジャンダールに」。いろんな意味で梅雨明けが待ち遠しい今日この頃です。
二代目福祉の営業マン